



社会福祉法人つるかわ学園  
つるかわ学園を支える会  
☎195-0051  
東京都町田市真光寺町  
186番地  
T E L (042) 735-2220  
F A X (042) 736-6374  
HP:tsurukawa-gakuen.com

### 新年あけまして

### おめでとーございます。

社会福祉法人つるかわ学園  
理事長 廣本 肇

いつも、年のはじめに思うことは、今年がよい年でありませうようにと願うことです。

昨年来、『生涯現役』と宣言していますが、少し大袈裟で、満身創痍の私、よく、ここまで生きて来たものだと自分に仰天している始末なのです。ちょっと具合悪いとすぐ医者に行きます。処方された薬は欠かさず素直に服薬します。おおよその病名を見当つけて病院に行きます。

大抵、予想した病名なんです。今から二十年前、心筋梗塞で倒れ命拾いをし、その時、知的障害者福祉協会から『愛護賞』を受賞し、入院中だったので女房殿が沖繩にもらいに行きました。学園の家族会ではお祝いに、私の好きな桜の樹をくださいました。大きく伸びて、いわゆる「枝垂れ桜」で、毎年四月、見事に花を咲かせます。あの時、退院して「酒

と煙草」をやめました。「死ぬ」と言われたので、「まだ死ねない」と「酒と煙草」をやめました。

私が元気だと、桜は花盛りしてくれそうです。体調が悪いと、花がしおれます。なんだか、あの桜は俺と同居してるのかなと思います。

六十をきつかけに、諸悪の根源である暴飲暴食の祟りで肥満化していた我が身の中身が病名に繋がる不調の数々を証明しはじめたのです。

それから平成十四年に、前から悪かった前立腺がさらに肥大し、手術しました。恥骨後式前立腺被膜下摘除術。臍の下から真っ直ぐに切り中の前立腺を摘出したのです。

はじめ癌ではないかと生検しましたが癌はなかったのです。その頃から耳鳴りがはじまり、ズーッと続いています。次は「眼」です。最初、

網膜中央静脈分枝閉塞症というのでレーザー光線照射治療で通院し、その後、平成十七年に左目白内障の手術をしました。最近、眼が霞むので、通院し、白内障を手術した方の左眼が汚れているとこのことで、レーザー光線で汚れを取り除き、右目をみたら白内障が進んでいたのが去年の十一月十八日に手術しました。書類を

見ていて、霞むし疲れるので、集中できないので、「白内障」かなと思ったら手術時と診断されたのです。胃カメラや大腸内視鏡は毎年やっていて何とかパスしています。

しかし、去年は、胆石のため、胆嚢を切除したり、お尻に癌が出来、静岡県立がんセンターで四肢駆幹部悪性腫瘍という病名で手術しました。

いよいよ癌のお出ましかと内心は穏やかではなかったのですが、切除すれば転移はあまりないと言われ、一年一度のフォロー診察はしている

ところですよ。癌の時、既往症の心臓が問われ、循環器は大和成和病院なので、行ったらカテーテルで診たら糸のようにやっとな繋がっている経皮冠動脈造影、よく生きていたなと言われステントで補いをつけたのです。

最近、息切れするなと思っていたと言ったら、六年も来ないでと叱られました。

そして去年七月、そけいヘルニアの手術をし...という経過です。人間は「消耗品」です。部品で悪くなったのは修理・修繕をし、なんとか使えるようにしていけば結構長く使用可能を維持できるのです。

賞味期限となると、そうはいかないのでしようが、日野原先生は百歳を超えて生きていらっしゃいます。他人のために尽くせば、そのお礼として「生涯」という年月の人生、少しは褒美をくれます。天国か地獄か分かりませんが、閻魔大王の帳面を書き換えてくれるかも知れません。

そんな話をどこかの本で読みました。人間、人生八十年だとするならば、

標準をはみ出して生きています。オマケなんですよ。

そうしますと、心筋梗塞、脳梗塞とか、つまり代表される「脳」とか「心臓」とかは訪れる病名。そして長生きしたためかも知れない「認知症」だつて用意されているのでしよう。

創設五十周年の祝賀会に呼ばれていくつかの施設に来賓という形で挨拶に行きました。泥まみれ土まみれ汗水流し、へとへとになるまでの五十年前の思い出。五十年を経た後継者が背負ってくれた施設。その立派な姿を目にし白髪の老人の知り合いが数えるほどにしか点在しない風景の中、愕然として襲いかかる孤独な自画像を体験しました。

法律が変わり制度が変わり、施設の風景も雰囲気も変わり、ある意味での穏やかな、そして世界の国々と比べると平和な戦争のない日本。

五十年、自分が歩いてきた道を振り返り、あの時代を生きていた不確実な世代の「ぼく」が、まるで青春の墓標のように蘇るのです。

「生涯現役」と威勢のいい事を言っていた、今年、八十二歳。免疫抗体が減りはじめているのは仕方ない。言い直して「生涯青春」のが恰好いいかなと思ひ始めています。立派でありたいと、正しくありたいとか無理な緊張をしないで、ゆったり豊かに光を浴び、健康な風に吹かれてい

ると生きていることの懐かしさ嬉しさに熱くなるのです。いつも同じ絵の年賀状。もうう人はまたかと思うけど気にしないで今年も暮らします。

今年も暮らします。

# 年頭にあたり 「最も重要な五つの質問」

つるかわ学園 施設長 植村義秀

平成二十七年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。昨年来国の社会保障審議会において社会福祉法人制度の在り方が再検討されています。結論はまだ出ていませんが、はつきりいえることは、社会福祉法人には「経営」という視点が不可欠になるということです。「現代経営学の発明者」といわれるP・ドラッカーは非営利組織の経営に関して「最も重要な五つの質問」を提起しました。それは、NPO等中小の非営利組織から、「お金のない我々のための経営ツールを考えてほしい」と求められ考えられたものですが、その後大企業の経営指針になったといわれています。

この五つの質問は、いいかえると、「私たちの使命は何か、私たちが必要としている人は誰か、その人たちにとつての価値は何か、私たちにとつての成果は何か、私たちの計画は何か」ということです。これは、まさしく「社会福祉法人」という組織のその存在理由に関わる、最も「根本的で本質的な質問」です。そして、「最も重要な五つの質問」に込められている行動計画を考え、実行していくことが真の「経営」だと示唆されます。また、行動計画への地道な取り組みを次世代を担う若い人材に引き継いでいくことは、最も重要な「経営課題」だともいえます。

本年も変わらませずご指導ご支援をお願いいたします。



# 「民間移譲に向けて」

東京都町田通勤寮 寮長 三階広明

寮長となって半年が経過しましたが、目の前にある課題処理に追われて慌ただしく過ぎたような気がして

取り巻く状況も大きく変化しています。

ままならない仕事ができているのではないかとこの思いも強く感じています。改めて自分の仕事を振り返り、新たな一歩を進めたいと思います。

一人一人の「利用者さんの思い（ニーズ）」を実現するためにどんな支援ができるのかを考え実践していくという、私たちの仕事の原点は変わ

りません。しかし、通勤寮の支援では「訓練」という側面もあり、利用者さんの理解を重ねていくことも求められています。そのことを職員それぞれが改めて自らに問いかけながら共有していく「支援」に引き続き取り組んでまいります。

本年もよろしくお願いいたします。

昨年十一月に公募がなされ、引き続き町田通勤寮の運営を担っていくために必要な手続きを行いました。結果は三月にならないと公表されませんが、何となく落ち着かない日々です。

「基本機能」を維持することが明記されていますが、あわせて、「創意工夫」による新たな取り組みも求められています。

「発達障害」といわれる方の増加、特別支援学校の進路指導、児童養護施設出身者の増加等、利用者さんを



# 新年を迎えて

地域生活援助センターフクシアセンター長 市川 嘉

昨年十月より町田通勤寮から援助センター「フクシア」に異動して一年が経過しました。財務的にかなり厳しい経営内容から脱却するためにセンター職員、世話人、生活支援員に協力を仰ぎ少しずつではありますが健全経営に向かって歩き出すことが出来ました。

協力いただいたことに対して大変感謝しております。援助センター「フクシア」は毎年通勤寮からの地域生活希望者を受け入れていきます。これから先も継続される事業であり、事業所の規模は大きくなる一方で当然職員数も増加していきます。

新年度の目標として、支援に携わってくださるセンター職員・世話人・生活支援員の安定雇用を主軸に置いて、コンプライアンスに十分配慮し、待遇面も含めてより働きやすい環境整備をしていきたいと思っています。

「職員関係が上手くいけば、利用者処遇向上に必ず繋がっていく」との信念を貫き通し、笑いのある職場を目指し、信頼関係構築を寄り強いものにするべきと目標を

掲げております。

また、近年我が国における財政状態は「世界一の借金財政日本」と言われ厳しい状況に置かれていることは承知していますが、その関係なのか、障害基礎年金の受給が年々厳しくなっており、従来受給出来ていたケースが現在ではじかれてしまっています。まして、受給して何年か経過した更新時でも受給停止の判断がされてしまうケースも増えていることも気になります。いずれにしても利用者さんが就労しながら生活を行う地域生活を送る上で必要不可欠な障害基礎年金受給を確保してもらいたいと思っています。

職員も受給申請時および更新時の手続きには十分努力していきま。皆様方のご支援も必要です。よろしくお願ひ申し上げます。



# 新年のごあいさつ

町田市障がい者就労・生活支援センターりんくセンター長 滝島弘之

新年明けましておめでとうござい。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、昨年の障がい者雇用の状況を振り返りますと、ノーマライゼーションの浸透や、ダイバーシティ（一人ひとりが、身体的条件、人種、性別、年齢、宗教・信仰などの属性にこだわることなく多様性を受け入れ、能力を活かしていく）の広がりなどから、企業等で活躍する障がいのある人が増え、同時に就職を希望する人も多くなっています。

また、企業においても、大企業を中心とした特例子会社の設立が進むなど、障がいのある人の働く場は拡大しています。

しかし、このような状況があるものの、障がいのある人が、障がいの有無にかかわらず、個人として尊重され、生き生きと働いていくためには事業主やそこで働く人々の理解と支援が不可欠です。

障がい者雇用を進める（採用から職場定着まで）うえで大切なことは、先ずは、経営者が経営方針の一つとして障がい者雇用を進めることを社員にしっかりと示すことではないで

しょうか。これにより、障がい者雇用に対する社員の意識が高まると思。また、経営者・採用担当者・受入部署社員すべてが密にコミュニケーションを取りながらお互いの役割を果たすことが障がい者雇用を進めるうえで重要であると思っております。

障がい者雇用は国の労働政策の中でもっとも重要なものの一つに位置付けられております。今後、障がいのある人に対する差別的禁止や合理的配慮の提供義務など真剣に考えなければいけないことがたくさんあります。

一人ひとりを個として尊重し、誰もが自分の考えに従って堂々と誇りを持って自分らしく生きていけるよう、真の意味での共生社会を目指して就労支援事業に取り組んでいきたいと思ひます。



# 相談支援事業の抱負

つるかわ学園相談支援センターこころ管理者 加藤真優

昨年六月に指定を受け、事業所が開設し半年が経過致しました。今年度については、既に福祉サービスを利用されている方に対する計画作成を行っているため、具体的なサービス利用の成果や、生活を支えるご家族や事業所職員、地域の皆様など様々な方の連携の下で安心した地域生活が営めるのだということを実感しております。また、法人内事業所の利用者の方全てにお会いするという貴重な経験を通じて、その方のニーズに応じた希望ある生活を支えるという相談支援事業所の役割を再認識したところです。そして、「自立」という概念を捉え直すきっかけにもなりました。これまで、自身の力が最大限発揮された形で生活を送ることが自立であると考えておりました。しかし、その方が選択・決定して生きる「自己決定」ことそのものが自立なのではないかと考えるようになりました。今日、意思決定をしない生活はありません。時には制限されることもあると思いますが、この意思決定をいかに支援するか、そしてその意思をどのように生活に反映すべきか、支援者のスキルが問われると感じています。

「意思決定支援」といふ言葉があります。これは「誰もが心に浮かべる漠

然とした思いや考えを形にし、その方が主体的に何かを選択することを支援するプロセス」を言います。何をもちつてその方の意思と捉えるのか、難しい判断を求められることもあると思います。そこで重要となるのは、その方の行動を制限せず、意思決定を尊重する姿勢を持ち続けることなのではないかと感じています。

以上を踏まえ、新年の抱負として、相談支援事業の要である「意思決定支援」の在り方について支援を通して考える年としたいと思えます。そして、新年度に向け、地域の方にご利用いただける体制を整え、希望ある地域生活を支える役割として地域で必要とされる相談支援事業所となることが出来よう、邁進して参りたいと思えます。



# 東京都地域移行促進

## コーディネーター事業

つるかわ学園副施設長 丸山文弘

平成二十五年十月より東京都から、「障害者支援施設等に地域移行促進コーディネーターを配置し、担当するブロックの施設における地域移行に向けた課題を分析し、地域移行に結びつけるノウハウを付与するとともに、区市町村及び相談支援事業者との連携を支援することにより、施設利用者の地域生活への移行を促進することを目的」とした、東京都地域移行促進コーディネーター事業を受託しました。そのコーディネーターの業務内容は、①地域移行に関する課題の整理、②利用者の地域移行支援（地域移行への意向確認、状況把握、地域移行を希望する利用者に対する継続的な相談支援等）、③普及啓発活動（利用者及びその保護者、施設職員等を対象に、地域移行成功者を活用したピアサポート活動を企画、実施等）、④地域相談支援事業者との連携強化、⑤区市町村との連携強化、⑥ブロック会議の開催、といったものです。

これは、国の方針としての、「どんなに重い障害を持った方でも地域

で生活することのできる社会を構築する」ということから、東京都が推進してきた事業です。確かに国の方針も、東京都の推進する方向性も、正しいことなんでしょうなあとは思いますが、でも、コーディネーターとして、つるかわ学園だけでなく他のいくつかの施設利用者のご家族へのアンケートを行いました。そこから窺えるのは、親亡き後への不安や、もしも地域（グループホーム等）に出て馴染むことができなかったら、また施設に戻ることができるとか等々といった、地域移行に対して疑問視する声が多いということです。そんなことを考えると、コーディネーターの仕事は、利用者・家族を啓蒙するだけでなく、国や東京都に対してこのような強い考えがあると伝えていくことも大事な仕事です。そうすることで、利用者の誰もが安心して地域生活にチャレンジできるようになればと思っています。本年もよろしくお願ひいたします。

# ソフトボール部奮戦記 春の大会スペシャル

山内 康紀



五月十一日(日)、栃木県壬生町にある壬生総合運動場にて第二十二回関東地区通勤寮ソフトボール大会が開催されました。

前年度は悪天候のため中止、初優勝を飾った一昨年以来の開催です。つまり町南通勤寮はディフェンディングチャンピオンとしての出場です。選手15名、マネージャー3名、職員4名の総勢22名が3台の車に分乗して早朝5時半に寮を出発、早目の出発が功を奏し、休憩を挟んで約2時間後現地に到着。前回の覇者らしく堂々と会場入りしました。会場は夏を思わせる暑さ。

初戦の相手は自立サポートセンター(神奈川)、旧白根青年寮です。町田にいちばん近い寮としてソフトボールでもよく合同で練習したほか、他の行事でも交流のある顔なじみのチームです。町田は安定した守備と繋がり重視の打撃で相手を寄せ付けず23対0で圧勝しました！2戦目は地元かえて寮との対決。かつて上位の常連だった古豪です。こ

こでも初戦同様堅実に得点を重ね大量リードを奪いました。途中から流れがピタリと止まりました。相手内野陣が守備を変更。左方向に「引っぱり」の打撃が目立つ町田に対し三遊間と一塁を徹底強化してきたのです。おかげで強打が次々と相手のグラブに吸い込まれ、得点は頭打ちに。じわりじわりと点差を詰められベンチは冷や汗。17対10で辛くも逃げきりました。

そして2年連続の決勝戦。相手は大田通勤寮。合同練習の常連で因縁浅からぬ相手です。

決勝戦のみフェアソンのボールデッドなしというレギュレーションもあって、徹底して守備重視のオーダーを組みました。相手の攻撃を耐えしのぎつつ、選球を尽くしたところ、四球から相手が浮足立ち、攻守に綻びが。コツコツと加点して終わってみれば9対2でしたが、点差以上に苦しい戦いでした。

連覇達成！みんな爽やかな笑顔でベンチへ戻りました。グラウンド上の選手も、ベンチで仲間のサポートに徹した控え組も、道具の出し入れや水分補給などのバックアップをこなし、マネージャーもみんな笑顔。全員でつかった勝利です。



## 第二回 つるかわ学園ふれあいまつり 二〇一四を終えて

地域支援部長 芹澤政人

昨年度まで三十六回続けてきた福祉バザーに代わり、今年度は、「つるかわ学園ふれあいまつり二〇一四」と名称を変更して開催させていただきました。

今回の地域行事のテーマは、「施設の情報や機能を地域に積極的に提供すること」「各企画を通して、利用者、家族、職員地域の方々、関係機関等と有意義に交流を図り、地域と結び合えるような行事にする」としました。長きにわたり福祉バザーを通して協力いただいた方々との繋がりは大切にして、より結び合えるような行事にしたいと思いを込めました。

また、これまでの福祉バザー後の総括から『近年の物品受領の状況』や『ポ

ランテイヤや職員も含めた人員体制の確保』『ご家族への負担の軽減』を考慮し、準備を進めました。

さて、ふれあいまつり当日の様子ですが、天気は雨。毎年福祉バザーは十月の最終日曜日(に)設定し、開催してきましたが、天候は悪いことが多いのもヒヤヒヤしており、雨に悩まされてきました。今回は、十月九日(日)に開催しましたが、朝から曇っており、準備を進めていた八時頃から雨が降ってきました。雨天決行の為、会場のレイアウトについては、雨天でも可能なようにしていました。気になるのは、「回日の開催ということ、雨の中、地域の方々来場して頂けるかどうか」が心配でした。

しかしながら、会場前には、八時半頃から傘をさしての列が出来ており、その時の来場者は百名を超えていました。

十時に開場すると、福祉バザーの各テントに足を運ばれており、買い物を楽しまれている様子でした。その光景にほっとしていると、徐々に天候も回復し、晴れ間も見られました。

福祉バザーの他にもテーマを大切に、ステージ、模擬店をより充実させ、作品展、パン作り体験、紙すき体験も企画、実施しました。企画として





とてもよい雰囲気であらゆる交流を図っている様子に、とてもうれしき思いで見えていました。利用者やご家族、地域の方からは、「楽しかった」「バザーの売り場は続けてほしい」等の言葉を多く頂きました。

今回の行事を終えての評価反省を踏まえ、来年度は、より楽しく交流を図れるような行事づくりを目指していききたいと思います。

最後に、今回の物品受領は誠に恐縮だったのですが、つるかわ学園まで物品を持って来ていただくことをお願いいたしました。それにもかかわらず、多くの方々に協力をして頂きました。また、地域や各関係機関の方など、多くの方の誠意とご理解、ご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。

また、これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## ダイエー ユニオン 車椅子寄贈 について

九月二十九日、ダイエーユニオン様より介助式車椅子一台の寄贈目録の贈呈式が行われました。七月に行われた、長年続いているダイエーユニオン活動の際に、グループホームドリームで集めていた任ジュースなどのプルトップについて話す機会があり、「プルトップ回収に協力いただいたので車椅子一台を寄贈したいのですが」という話になりました。



二〇一一年にも一台寄贈してもらっており、今回で二台目の寄贈となります。ダイエーユニオン様から車椅子のカタログを送ってもらい、

## つるかわ学園を 支える会のご案内

「支える会」について  
国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一歩

今の利用者さんたちにとって使い勝手が良いであろうタイプを検討し、介助式の車椅子をお願いしました。寄贈して頂く車椅子は十一月中には学園に届く予定で、利用者さんたちの生活の場面で活躍してくれるものと思ひます。今回の寄贈を受け、学園でもプルトップの回収ボックスを職員室に設置しました。微力ながらダイエーユニオン様のプルトップ回収活動に協力していくことになりました。



の力の支えをこうした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様のご小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。

どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

### 会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一〇年額三千円ですが、ひとりで何回か入っていたりすることを歓迎、お願ひしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

### 入会方法

入会して下さる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

### 振替口座番号

〇〇一〇一七七一九四〇二九  
加入者  
社会福祉法人 つるかわ学園

### つるかわ学園 ホームページ

日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます

アドレスはこちら!!  
HP: [tsurukawa-gakuen.com](http://tsurukawa-gakuen.com)

